

1999年6月15日

いすゞ、ポーランドで小型ディーゼルエンジンの生産を開始

いすゞ自動車(株)がポーランドに設立した、ディーゼルエンジン生産会社「いすゞ モーターズ ポルスカ ISUZU MOTORS POLSKA Sp. z o.o. (略称 ISPOL)」は、6月14日より、小型乗用車用ディーゼルエンジンの生産を開始した。

ISPOL は、1997年1月にポーランドのカトヴィーチェ県ティヘ市に設立された。日本企業からポーランドへの大型投資第一号として、内外から注目を浴びる中、いすゞは総投資額約260億円を投じて、年産能力30万基の最新鋭ディーゼルエンジン工場の建設を進めてきた。

生産を開始した工場は、変種変量に柔軟に対応出来る新生産方式 IFC(Isuzu Flexible Cell System)を導入した他、騒音・排水・土壌汚染については世界トップレベルのEU規制に適合するなど、ハイテク設備と環境との共生を実現している。これにより、高性能、高品質、低コスト、のエンジン生産が可能となった。

いすゞは現在、ゼネラルモーターズ(GM)グループにおける、ディーゼルエンジンの開発・生産を主体となって進めている。その中で ISPOL は、ヨーロッパにおけるディーゼルエンジンビジネスの中核を担うものである。

ヨーロッパでは近年、環境意識の高まりから、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)の排出量が少ないディーゼルエンジンの需要が伸びており、今後もディーゼルエンジン車の需要増加が見込まれている。

生産を開始したエンジンは、ヨーロッパの厳しい環境規制に対応する、新世代の小型乗用車用ディーゼルエンジンで、ドイツオペル社向けに販売する。

ISPOL の生産開始により、いすゞの海外でのディーゼルエンジン生産拠点は、タイ、インドネシア、中国について4拠点となり、エンジン供給体制は一層充実した。また、来年夏には北米において、GM と合併で設立したディーゼルエンジン生産会社「ディーマックス リミテッド(DMAX Ltd.)」

が生産を開始する予定である。これにより、ディーゼルエンジン生産における、日本・アジア・欧州・北米の世界4極体制が完成する。